

みなさん、こんにちは。

私がこのスピーチのテーマを考える際に最初に思い浮かんだのは、かなり昔の光景でした。それは高校に通っていた16歳の頃のことです。

高校のとき、普段は私の家から学校まで歩いて約20分かかりました。ある冬の朝、午前6時に家を出ると、前日の夜に降った雪が道路の一面を覆っていて、氷が張り付いていました。そのような朝、私は慎重に足を運びながら、一步一步学校へ向かいました。ありがたいことに、教室に着いたとき、ちょうど自習のチャイムが鳴り響(ひび)きました。その日は学校まで40分かかりました。

ほぼ10年前の出来事ですが、あの冬の朝の冷たい風の音が今でも私の耳に残っています。その時の出来事はとても象徴的だったと思います。今までの人生をあのと時と同じように、慎重に一步一步歩んで、現在、この場所に立っているんだと思っています。途中で何度か転び、けがをしたこともありましたが、幸運なことに、皆さんを含む多くの人々の助けが得られて、今ここに辿り着くことができました。

もちろん、ここが私の最終目標というわけではありません。実は、今でも私は自分が何を求めているのかまだよくわかりません。でも、確かなことは、私が望んでいないことが何かはよくわかっています。その日、雪の中を歩いていた私は、以前読んだ日本の小説のシーンを頭に浮かべていました。地元を一步も出たことがなかった私にとって、世界は狭いものだと思っていました。しかし、自分と全く異なる生活をしている人がいて、その人の世界に憧れを抱かずにはいられませんでした。私にとって、自分とは全く異なる世界を見たいという思いは、この私が本来何の縁もない場所にやって来た原動力でした。

高校時代の冬、普段と違う雪景色の道を歩いていた私と現在、日本という外国の道を歩いている私は同じ私です。今進んでいる道を慎重に一步一步着実に歩むことで、何かの未来の世界に間に合うかもしれません。それが夢へのステップだと信じて、歩んでいこうと思います。

最後に、みなさんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。